



佛印海軍日誌機密第五號

(捕兒島納)

前略

十一日波集國參謀副長佐藤大佐兼訂ヲカトル少總督ヲ對シ  
 安藤軍司令官ヨリノ軍刀ヲ贈ラレ聖十二日佐藤大佐  
 ヲ主賓トスル總督主雖ノ午餐有之ト官等モ倍席  
 致候 佐藤大佐ハ同席上別紙其ツ一ノ如キ挨拶ヲ述ナル  
 希望ナリシモ結局十二日午前佛譯文ヲ佛印側ニ渡シ  
 食後總督ノ室ニテ会谈スルフト相成リ例ニ依ツテ  
 軍隊駐屯、軍事施設ノ使用ハ總督ノ權限外ナリ  
 トテ物別レト相成候  
 次テ十三日ニハ十二日東河ノ荒尾、神兩參謀及  
 佐藤波集國參謀副長ノ三名ハ佛飛行機ヲ先開

海

軍

0389

(鹿児島納)

方面ヲ視察夕刻帰河故佐藤大佐ノミ(小池大佐)

共謝野書記官同行)總督ヲ三度訪問シ愛南作戦

可能ノ自徳ヲ得タル旨更ニ重ネテ佛印側ノ軍事協

力ニ関シ總督ノ考慮ヲ促シタル由ニ御座候

此ノ間ノ事情詳細ハ神中佐ヨリ馳取セラレ度候

二、前便ヲ申上候六日午前總督ト會見ノ際ノ總

督説明見書譯文別紙其ノ二、其ノ三、<sup>其ノ四</sup>通御送

リ申上候

三、前項ニ関聯シ七月十二日午エホウ少佐ヲ通シ別紙

其ノ五 訳文ノ如キ佛印總督ノ申出有之候

海軍

0390

海軍

四、本十四日在廣州灣十三掃司令ノ電報ト前後ニ  
 總督側ヨリモ遭難機殉職者全員ノ遺骸ヲ廣州  
 灣ニ收容シ十五日午後河内ニ空輸シ來ル義旨通知  
 有之 茲ニ三日ハ告別式其ノ他ニ多忙ノコトト存候  
 根本中佐ニ對シ佛國勳章授與ノ件申出アリ  
 事故ノ内容ニ鑑ミ殉職佛人側ニ對シテハ帝國勳  
 章賜與ニ関シ何分ノ御軒施願上候

以上

(鹿児島)

0391

七月十一日統督午餐ニ於テ波集團佐藤參謀副長

挨拶

一 前言

私ハ帝國政府ヨリ派遣セラレタル監視員ノ兼任者ニシテ東印  
ニ佛印當局ニ面接シ老練ヲ得タル機會ニ於テ私カ南支派遣  
軍ノ幕僚ヲアル關係上該軍ノ立場カ多様々説明シ上御諒解  
ヲ得タイト思ヒマス

私ノ申ス事ハ会々ノフリートーキングニシテ御聞キ取リ願ヒマス  
ニ 我軍ノ希望

貴方ヨリ防守同盟ノ御申出ニ接シ我軍ハ之ヲ歓迎スルモノデ  
アリマス

之カタシ我軍ノ作戰上ノ必要カヲ別紙ノ如キ要綱案ニ其全キ相  
互協力ヲ致シ度イト考ヘマス

美談中葉十三行郵紙(本田納)

(一)

海軍

0392

三、以下右要綱字を聞て若干、説明する中、若干、新マス

1. 日本軍隊軍需品佛印通過、絶對的の必要性

我軍ハ支那ノ要威ヲ戰定スルト共ニ海外補給路ノ遮断

即チ封鎖ニ依リ重慶政府ノ壓迫壊滅ヲ圖リ居ルニ及ニ

對シ佛印力最近絶大ノ協力ヲ與ヘシタ事ニ就テハ軍ニ大ニ威

懾シテ居ル次第アリマス、然ルニ軍ハ最近諸般ノ清勢ニ體テ

重慶政權崩壊ノ為ニハ封鎖ノ強化ハ勿論之ヲ経續スルカ軍

ニ及ラズニ頼ムコトナク更ニ重慶ニ對シ直接の壓迫ヲ加フルノ

必要ニ感ジ他正面ノ作戰ト相俟ケテ兵ヲ佛印方面ヨリ進メテ

重慶ヲ壓迫スルハ絶對的の必要ト認ムルニ至リマシタ

又支那軍ガ佛印ノ國境ニ近ク漸次集結シテ以テ之ヲ攻撃す

ルニ為テ我軍隊軍需品ノ佛印ハ通過及雲南ノ鐵道

並ニ河内ノ滇南間鐵道ノ使用ハ我軍ニトシテ絶對的の價

海軍

値リ有らん問題トナリテ来タノアリマス

此ノ事ハ支那事変處理上我軍ノ死活問題トナリテ来リテ事ヲ  
特ニ御諒承ヲ仰キ度イハレアリマス

又支那軍ノ情勢カ

諸情報ヲ綜合スルニ支那軍ハ佛印國境附近ニ漸次兵力ヲ

集中シテ来マシタ、從ツテ次ノ二ツノ場合ニハ戰力佛印内ニ波及シ

佛印カ日支兩國軍ノ為メ戰場ト化スル堪カ多分ニアルト思ハル、

ノアリマス 即チ

a. 高州、靖西附近ニ豫想セラル、戰力カ自然ニ佛印内ニ波及

スル場合

又佛印ノ國境閉鎖ニ從ツテ物資輸出入ノ不可能ニナルニ伴ヒ支

那軍ハ佛印内ニ武力進入シ全クの場合

此ノ場合我軍モ亦亦我ノ必要上軍隊ヲ佛印内ニ投入セリ

海軍

0394

可カラサレニ至ルヲアリマセウ

然レモ若シ佛印ヲ通過シテ佛印國境方面ヨリ支那奥地ヘ我兵

ヲ遣ルニトカ容認セラルハナラバ我軍ノ疾風迅雷的攻勢力作戦ニ

依リ支那軍ヲ大ナル部隊ハ佛印國境ヲ冒ス事ハ自然ニ不可能

ニナリ又假令一部ノ部隊力之ヲ企ツルモ我軍ハ之ヲ撃退スルヲ

アリマセウ從テ佛印ノ戰場化スル憂ハ無クナルノヲアリマス

3. 軍ハ佛印ノ領土保全ヲ保障スル

軍ハ佛印ノ領土保全ニ関シテ毫モ野心ヲ有セザルヲトシ私力申ス

マテモアリマセン

然レモ下ヲ佛印力我軍隊ノ通過ヲ拒否セシムル此ノ方面ヨリ

兵ヲ遣ルニ直接の軍費ノ壓力ヲ加フルニトカ不可能トナリ從ヒテ

事表解決力遷延スルナラバ我國論ハ當然激化スルヲアリマス

斯様ノ事ハ日佛兩國ノ為不幸ナ事アリマス。

(四) (長 刑 總)

海 軍

0395



佛印當局ノ土人統治ノ立場ニ就テハ充分了解致セマス

土人ハ多数ノ我軍隊軍需品カ佛印由リ通過スルヲ見ル時佛

印カ~~佛印~~日本井ノタメニ台領セリ或ハ独尊立リ侵害セリタ

如ク誤解ヲ生ズルカモ知レセシ~~斯~~誤解ハ土人統治上大尤悪

影響カアリマセウ知レ佛印ト日本トカ~~其~~友邦トシテ且對

等ノ立場ニ於テ同盟ヲ結ビテ協同作戰ヲスルト言フニトテ充分

土人ニ理解セズンナラズ

右ノ如ク誤解ハ~~難~~トカ出来マセウ

之カタメニハ若シ必要トアラバ日本軍司令官ノ名ヲ以テ佛印當

局ノ御希望ノ如ク聲名又ハ佈告ヲ發スル~~ト~~如何様ニモ

御協力カヲ致シマス

其他佛印ノ安寧ヲ秩序維持上必要ナル事ニ就テハ日本

軍自身ノ作戰ニ支障ヲ来タサズ~~長~~貴方ノ御要ハ

海軍

ニ應じ得ルノ用意力有リマス

四、秘密保持

私ヲ以テ申上ケタ事ハ我軍ノ作戰企圖ニ重大ナル關係力有  
シテ支那及第三國ニ對シテハ絶對ニ漏洩セザル様要望トマス  
特ニ本協定力成立スルニ於テハ我方ハソノ發表前ニ一部隊  
隊ノ移動ヲ断行スルノ要アランニ鑑ミ本協定ノ進捗状況等  
ニ就テハ絶對外部ニ漏洩セザル様御注意ヲ願ヒマス

(六)

(長洲納)

海軍

0397

別紙

日佛印協定要綱

第一、日本ト佛領印度支那ハ蒋介石石政權ニ對シ協同作戰ヲ行フ

第二、前條協同作戰ノ實行ハ左ノ各項ニ準據ス

一、日本軍ハ佛印方面ヨリ支那領土ニ對シ攻勢作戰ノ實施シ且要スル一部ヲ以テ佛印軍ト協同シテ佛印領土ニ防衛ス

二、佛印軍ハ佛印領土ニ防衛ス

第三、日佛印ノ協同作戰ノ爲佛印ハ日本ノ軍隊及軍需品ノ佛印内通過其他必要ナル便宜ヲ供與ス

日本軍ハ佛印ノ安定及秩序維持ニ關シ其ノ作戰ニ支障ナキ限リ佛印當局ニ所要ノ協力ヲ爲ス

(七)

(長 刑 納)

海 軍

0398

第四、日本ハ佛印ノ独立ヲ保障ス

日本軍ハ支那事変解決后ハ速ニ佛印ノ軍事的利用  
ヲ停止ス

第五、日佛印協同作戦ノ細部ニ關シハ本協定ニ基キ佛  
印當局ト日本軍當局ト直接協議ス

尾

(長別納)

海軍

0339